商工会総務委員会とのタウンミーティング

2018.12.18（火） 16：40～17：45

ふるさと交流研修センターさらい

研修室B01

参加者 商工会総務委員会委員 12名、商工会事務局職員 7名
能美市役所職員 10名

●商工会本会長あいさつ

このように商工会と行政が話をする機会をもつのは初めてであり、楽しみにしていた。

●市長あいさつ

今年度13回目のタウンミーティングとなる。色々なご意見ご要望を聞かせていただきたい。

●市長より市勢報告

- ・ 現在、能美市の人口は増加しており、特に外国人が増えている。ベトナム人が一番多い。外国人比率は県内1位である。
- ・ 2020年からは人口は減少していく、また高齢化率が高くなっていくと予測されている。人口が減ると行政サービスを思うようにできなくなり、町のコミュニティが失われてくる。今後は人口減少をいかに食い止めていくかが課題である。
- ・ 女性就業率も高く女性が活躍しているまちでもあり・健康づくりの面でも評価されている。企業誘致・工場増床も好調である。
- ・ 人手不足、自然災害やアセットマネジメント（老朽化した公共施設、道路・橋・水道管の維持管理）も課題として挙げられる。
- ・ 課題に対して「移住定住の促進」、「地場産業振興・企業誘致推進」、「交流人口の拡大」、「行財政改革」、「教育力の向上」の5本柱で取り組んでいる。
- ・ 今日【交通インフラの整備と活用】、【施設の拡充】、【産学官金の連携】、【コンパクトシティ】、【自然災害への対応】、【シティプロモーション】について掘り下げて話をしたい。

【交通インフラの整備と活用】

- ・ 道路をつくり、通すだけでなくその周辺を開発していくことが大事。
- ・ 能美根上スマートインターチェンジ（SIC）、加賀海浜産業道路、国道8号、加賀産業開発道路、東西連絡道路、JAIST周辺の土地の活用、加賀産業開発道路沿いフラワーセンター跡地の活用を考えている。

【施設の拡充】

- ・ 九谷焼資料館のリニューアル、能美警察署の新庁舎への移転

- ・辰口中央児童館の建設・・・周辺の図書館、のみでん、芝生広場一帯を「ふるさと愛の醸成する場所」にしたい
- ・新博物館の建設・・・木材を多用して和田山の風景、歴史を感じられる建物にしたい、周辺の古墳、さらい、防災センター、能美警察署一帯を「ふるさと愛」を醸成する場所にした
- ・能美根上駅の待合室「のんびり」の創設

【産学官金の連携】

- ・企業誘致推進室をJAIST内へ移動し産学官金連携を促進
- ・地元のお店を知ってもらう、人の魅力を感じてもらう、地元の振興につなげるため商工会と連携
能美市に移住・就職した人に引っ越しの際にかかる費用を安くする、お店で使えるクーポン（Nチケット）の発行
能美市内に移住、結婚したひとにのみ共通商品券を贈呈
能美市のお店・企業を紹介する冊子（マゴノテ）の発行
市内の高校生や県外の能美市出身の大学生に配布する就職情報冊子の発行
能美市の産業向けの政策を有識者や現場の人と協議する産業振興会議の開催
- ・観光戦略会議の開催
交流人口の拡大に向けたビジョン、アクションプランを有識者と作成
- ・IoT・AIの活用
人手不足、担い手不足解消のため省力・省人化・自動化、情報発信ツール、生産性の向上、品質管理、市場開拓・マーケティング・情報発信、ニーズの把握、インフラ点検、通訳・翻訳、アンケート調査
- ・包括連携協定
今年度、金沢学院大学と協定を締結

【コンパクトシティ】

- ・のみバスのダイヤ、ルートを見直し利便性を高めたい
のみバスについてアンケートを実施し、再編に向け検討会を開いている。民間バス・鉄道、JRとの連携を強化、観光地・商店との連携、バス停までの商店による送迎も考えている。通勤通学、買い物、飲食、観光の利便性にも繋がるようにしていきたい。

【自然災害への対応】

- ・今年は大雪や大雨に見舞われ、職員総出で対応したが、市民に迷惑をかけた。雪害に関しては対策強化を図った。
- ・大雨では土砂災害警戒情報も発令され、災害対策本部を立ち上げ気象情報や水位、土砂災害危険度、時刻などを鑑みて避難勧告を出した。避難勧告を出すときは、発令自体の情報の他に多くの情報を伝えなければならないため、市民への情報伝達に

苦勞した経緯がある。高齢者が多い地域でありケーブルテレビ、HPにも情報を出したが、見ていない人がいるかもしれないため、町会役員、自衛消防、市職員、民生委員が一軒一軒家を訪ねて伝えた。解除のタイミングの判断も難しい。

- ・外国人のためにも多くの言語に対応しなければならない。どのように伝えるのか悩んでいる。台風では市内全域を対象に自主避難所を開設した。1人暮らしで不安に思い避難してきていた人が思いのほか多く、対策が必要。

【シティプロモーション】

市の魅力を市内外、国外に発信している。観光特使大使を増員した。

関東能美市の会のほか、今年は関西ができ、来年は東海もできる。ひば能んゆず美んもいろんなイベントに参加している。活用してほしい。市庁舎市民ホールを活用した各種展示を実施。「Song Of Nomi」に歌詞がついた。トップセールス、タウンミーティング開催に取り組んでいる。

- ・各施策は市役所だけでやれることではなく、市民力・地域力・ふるさと愛があってやれることである。今年一年を漢字一文字で表すと「援」と議会で答弁した。皆様の「応援」、「支援」、「声援」ご協力を頂いたからである。

●意見交換

(委員)

- ・市長は元寺井町商工会の青年部長でしたが、能美市から見た商工会の位置づけはどうお考えか？

(市長)

- ・商工会青年部時代は異業種交流、世代間交流をできたことが楽しかった。私の礎となっており感謝している。いくつになってもこの思いは変わらない。意見交換できる、助け合えるのが商工会であり、大きな魅力である。
- ・他の商工会とのつながりもあり広がりがある。スタッフも親身になって相談にのってもらえる。経営のサポート体制も強みである。

(委員)

- ・税収の面でも企業誘致は必要だが、地元企業もよろしく願いたい。

(委員)

- ・朝、車のラジオで聞いた149か国のうち日本の男女間格差は110位、G7でも7番目で最後であった。
昨年は114位で4位上がった。賃金格差が少し是正されたから。まだまだ女性が政治・企業経営などで力を発揮していないということだった。能美市は女性管理職が

少なく、議員も二人だけ。これについてどう考えているか。

(市長)

- ・ 以前の職場では女性の活躍する姿を見てきた。女性ならではの仕事の捉え方、実力を発揮できる機会はあるはずと思っている。男女共同参画を進めていきたい。
- ・ 能美市の管理職の女性比率は一昨年の18%から今年は22%になった。今後も努力していきたい。しかし、女性職員に聞くと、課長部長になることを躊躇する人もいる。家庭との両立に不安があり時間をさけないからとも聞いている。
- ・ 女性町会長を望む声もある。無理に引っ張り上げるのではなくやりたい人にやってもらえる環境をつくることが大切。
- ・ 能美市は女性就業率が高く、女性の校長・教頭が多い。女性が活躍していると思う。
- ・ 買い物支援をしている女性団体もあるし、婦人会もいろんなことに取り組んでいる。そんな活動を支援することが男女共同参画の推進にもつながっているものと考えている。